

調布市社会福祉協議会の事業総括

令和3年度は、7月から9月にかけて1年延期となっていた「東京オリンピック・パラリンピック（東京2020大会）」が開催されました。相変わらず新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るい、選手・関係者の感染が相次ぐなど影響を受けたなかでの大会となりましたが、日本人選手の活躍も光り、一定の盛り上がりも見られました。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大は、調布社協が進めてきた地域福祉活動にも大きな影響を及ぼし、感染対策を講じつつも地域住民を対象とした対面での事業が一部実施困難となりました。この結果、地域での孤立化や高齢者のフレイル等の懸念が一層増大しています。

調布社協は法人化50周年という節目の年を迎えましたが、コロナの影響は避けられず、記念式典は令和4年度に順延としたほか、恒例の調布市福祉まつりは、形を変えて動画配信による開催となりました。また、収入減少に対する総合支援資金や緊急小口資金の特例貸付は、受付期間の延長が繰り返され、その都度相談者に寄り添った対応に心掛けてきました。

コロナ禍だからこそ、人と人とのつながりを絶やさず、孤立を防ぎ、暮らしの中の楽しみを失わないよう、居場所や助け合いの活動等をはじめ、地域での新たな取組が生まれてきています。

令和3年度は、調布社協としても地域住民の皆さんの思いを大切にしながら「コロナに負けない調布の福祉」のスローガンのもとで各種事業に取り組んだ1年でした。引き続き、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていける「地域共生社会」の実現に向けて取組を進めてまいります。